

令和6年度 自己評価および学校関係者評価書

令和7年3月11日
函館市立八幡小学校

1 本年度の重点教育目標

進んで学び 豊かな心で やりぬく子

2 本年度の取組の重点

- | | |
|--------------------|----------------------|
| ① 子供を学びを通して笑顔にする | ④ 保護者・地域を安心と信頼で笑顔にする |
| ② 子供を人とのかかわりで笑顔にする | ⑤ 笑顔で子供と向き合う職員集団 |
| ③ 子供に寄り添い笑顔にする | |

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
子供を学びを通して笑顔にする	主体的・対話的で深い学びを通して、「分かる・できる」授業づくりができたか。	b	研修への参加や他校の実践の参観を積極的にすすめる。	A	A	
	一人一台端末を有効に活用した授業実践を行うことができたか。	a		A	A	・端末の利活用とともに、実際に鉛筆で「書く」ことや思考力の育成も大切にした指導を進めてほしい。
子供を人とのかかわりで笑顔にする	体験を通して、人とのかかわりを学ばせ、いじめの未然防止、豊かな心の育成を図ることができたか。	b	学級・学年を超えた交流の機会を増やす。また、「特別の教科」道徳の指導の充実を図る。	A	A	
子供に寄り添い笑顔にする	自己肯定感を育て、個の特性に応じた関わりをし、子供に寄り添う意識高揚や環境づくりができたか。	a		A	A	・不登校傾向のある児童や教育上配慮を要する児童について、「教室に行くことがゴールではない」ということも、該当保護者や児童にも認識してもらえるとよいのではないかと考える。
保護者・地域を安心と信頼で笑顔にする	子供の様子等を家庭と共有し、学校と家庭が連携して子供を育成することができたか。	b	校内での情報共有をさらに密にする。	A	A	
	C・Sを活用し、家庭・地域が一体となった学校運営を推進できたか。	a		A	A	・評価項目がよく精査されている。 ・町会でも「子供の居場所づくり」を進めたいと考えているが、人手不足が課題である。
笑顔で子供と向き合う職員集団	時代の要請・課題に応えるため、チームまた個々が高まるマネジメントができたか。	a		A	A	
	教員が生き生きと子供と向き合うため、働き方改革に向けた取組を進めることができたか。	a	さらに、年間授業時数の見直し、ペーパーレス化、留守番電話対応時間の見直し、業務の外部委託などを進める。	A	A	・時代の流れもあり、ペーパーレス化は賛成である。町会掲示用に紙媒体での配付（2枚程度）があるとありがたい。

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。